

## 第8章 網走の自然

佐藤栄理

### 8.1 網走の自然

#### 8.1.1 網走について

網走市は北海道の東海岸、オホーツク地方に位置する市である。高い山はなく、丘陵地が多い。市街は網走川河口付近と、その南に続く海岸段丘上の平地に広がる。北西部に能取湖、中部に網走湖、東部に濤沸湖があり、それぞれ網走国定公園の一部である。気候は、1年を通じて晴天が多く、年間降水量・降雪量は少ない。オホーツク海に面するため海洋性気候の影響も受け、北海道東部としては比較的温暖な気候である。オホーツク海に面しているため漁業や流氷をメインにした観光業が発展している。

図 8-1 網走の流氷



出所：網走市公式サイト

#### 8.1.2 流氷について

毎年1月下旬から3月中旬までオホーツク海は流氷に覆われる。流氷は自然そのものである。オホーツク海の最北西部沿岸で厳しい寒気に吹き付けられた海水は、氷点下1.8℃まで冷えると海面近くに小さな針や板状の氷に変化する。これが氷晶(ひょうしょう)である。氷晶が少しずつ増えて、やがて海面を覆い、それが互いにぶつかり合ったり、結合したりして蓮の葉状の氷に成長していく。11月頃に誕生した蓮葉氷は強い北西の季節風と東カラフト海流に乗って、さらに成長しながらゆっくりとオホーツク海を南下する。それが1月下旬～2月上旬に北海道のオホーツク沿岸へとたどり着く。この流氷に含まれる塩分は0.5%前後で、海水の6分の1以下である。氷の結晶が次々にくっつき合って大きくなる流氷だが、凍りにくい塩分だけが取り残されたようになり、その様子は顕微鏡で流氷を見るとよくわかる。流氷の下には大変な量と種類のプランクトンが活動しており、クリオネもそのひとつである。また、網走市などオホーツク海沿岸などの北海道周辺の海域は、北半球ではもっとも低緯度で流氷が見られる地域である。流氷は、オホーツクの海を真っ白な台地のように変え、流氷が水平線の彼方に見え始めるころ、海を埋めつくす頃、春先の青い海に漂う頃など、能取岬やニツ岩などの海岸線だけではなく、市街地の高台からさまざまな流氷の姿が見られる。

図 8-2 流氷の流れ



出所：網走市観光協会 HP

### 8.1.3 能取岬・能取湖

オホーツク海に突き出した能取岬は、網走を代表する絶景ポイントである。突端には灯台と管理事務所があるだけで、ここから西方は能取湖と常呂町の海岸、北方はすべてオホーツク海、東方は遠く知床連山が眺められる。その能取岬の付け根に広がる能取湖は、オホーツク海と通じる周囲 31km の汽水湖である。8 月下旬から 9 月下旬にかけて、卯原内地区のサンゴ草大群生地は真っ赤に染まり、サンゴ草で一面が覆いつくされる。

図 8-3 能取岬



出所：網走市観光協会 HP

図 8-4 能取湖



出所：網走市観光協会 HP

### 8.1.4 網走湖

網走湖は北海道網走市と網走郡大空町にまたがる湖である。網走国定公園に含まれている。冬になると網走湖は全面結氷し、ワカサギ釣りの釣り人でにぎわっている。また、網走湖は全道のシジミ水揚げ量の 8 割以上を水揚げしている有数のシジミ産地でもある。網走湖のシジミは本州のものとは比べて粒が大きい。安定した水揚げが維持されている背景には徹底した資源管理がある。網走湖はミズバショウの群生地でもあり、網走から大空（女満別）にかけて、52ha のミズバショウの群生が広がっている。これは国内最大級の規模であり、ミズバショウは雪解け後、4 月中旬ごろから白い花をつけ見ごろになる。

### 8.1.5 天都山

天都山は、網走国定公園に属し網走で一番高い山である。標高 207m の山で、山頂からの景色は「天の都に昇るような心地にさせるほど美しい」とたたえられるほどの絶景である。網走湖や能取湖、濤沸湖、藻琴湖、オホーツク海をはさんで知床半島、阿寒の山並みまで壮大なパノラマを 360 度楽しむことができる。1938 年には国の文化財である「名勝」に指定されている。網走市街地から天都山に向かうルートは網走観光の定番のコースで、広大な農村景観を眺めることができる。山頂には天都山展望台があり、展望台に隣接してオホーツク流水館や北海道立北方民族博物館、天都山桜公園がある。また、レークビュースキー場やフラワーガーデンはな・てんと、公園などが整備されており、山腹網走湖側には博物館網走監

獄があり、天都山一帯が網走市の主要観光地となっている。網走を代表する桜の名所である天都山桜公園では、5月になると、およそ1,000本のエゾヤマザクラが美しい桃色の花を咲かせており、多くの花見客でにぎわっている。

図 8-5 網走湖のミズバショウ



出所：旅なび！網走 HP

図 8-6 天都山からの眺め



出所：網走観光協会 HP

## 8.2 サング草について

### 8.2.1 サング草とは

サング草は正式名称をアッケシ草といい、9月上旬から10月上旬が見ごろである。季節になると茎の部分が赤く染まり、本当のサングのように見える。サング草は塩生植物の中でも、塩に特に強い耐性を示し、塩の存在に依存的な植物であり、生育過程が進むにつれて、塩を蓄積することにより耐塩性を獲得する強塩生植物である。能取湖南岸の網走市卯原内地区では塩湿地をトラクターを用いて耕起し、他の塩生植物を抑制させる事によって国内最大級のサング草群落を維持していたが、色付きの不良を改善するため行なった園地整備により、2011年には大幅に縮小した。2012年からは土壌改良が行われ、2014年秋には6割程度まで回復している。

図 8-7 サング草



撮影者：片原顕光

図 8-8 能取湖サング草



出所：旅なび！網走 HP

## 8.2.2 サンゴ草の歌

「日本一」を誇った網走市卯原内の能取湖畔にあるサンゴ草の群生地への再生を願い、芹洋子さんによって「サンゴ草咲く日に」という歌が歌われた。能取湖にはこの歌の歌碑もあり、この歌が歌われ、芹洋子さんのアルバムに収録されたことを機に全国から多くの観光客が訪れるようになった。

図 8-9 「サンゴ草咲く日に」歌碑



出所：オホーツク街道・秋の旅

図 8-10 サンゴ草咲く日に



出所：YouTube

## 8.3 自然と触れ合う

### 8.3.1 流水体験

世界で最も南に位置する流氷の海、オホーツク海の流氷の源は、中国とロシアの国境を流れるアムール川にある。冬の流氷観光の超人氣が流氷砕氷船「おーろら」である。船底が氷塊にぶつかり船全体が振動する迫力は圧巻で、流氷とともに訪れる動物を見ることもできる。悠然と飛ぶオジロワシや流氷の上でのんびりと昼寝をするアザラシにも出会えるかもしれない。

流氷の上に乗ったり、歩いたりできる流氷ネイチャリングという体験もできる。流氷の漂う海上で、ドライスーツを着て、流氷の上を歩いたり、流氷に触れたり、流氷と一緒に海にプカプカ浮いたりなどさまざまなことを体感することができる。直接、流氷に触れて、塊にのっかったり、写真を撮ったり一生忘れられない体験ができるのである。流氷について興味深い話も聞くことができる。

冬のオホーツク海沿岸を走る列車「流氷ノロッコ号」もある。知床斜里から網走間を走っている。車内にはダルマストーブや大漁旗、浮き玉などが設置されており、オホーツク海や流氷を望むことができる。車両は 5 両編成で、2 号車から 5 号車の展望車には、海に向かって大きな窓がある横長のベンチ席が設置されており、オホーツク海を覆う流氷、そして雪化粧した知床連山をゆったりと眺めることができる。平均時速は 40km 台でのんびりとした

旅が楽しめ、見どころではスピードを落として運転してくれるため、じっくりと景色を楽しむことができる。途中の北浜駅に10分程度停車する。北浜駅には隣接して設けられた展望台があり、海を埋めつくす流氷の様子を観察でき、知床連山や網走方面まで見渡すことができるため、人気である。北浜駅から浜小清水駅間の車窓には、「濤沸湖」のオオハクチョウを見ることができる。

図 8-11 流氷砕氷船「おーろら」



出所：網走流氷観光砕氷船おーろら公式 HP

図 8-12 流氷ノロッコ号



出所：旅なび！網走 HP

### 8.3.2 アウトドア体験

網走湖では、カヌー、ボート・セーリング（ウィンドサーフィン）が楽しめる。網走国定公園の中にあり、競技用ボートの合宿で全国に知られる網走湖、波が穏やかなため、初心者でも挑戦することができる。

ホーストレッキングという体験では、馬と一体となって、高い視点から雄大な風景を眺めながらのんびり散歩を楽しむことができる。オホーツク海を望む高台などで体験することができ、牧場、海、湖、森、川、農村景観の中、希望の組み合わせで乗馬体験をすることができる。ホーストレッキングは春夏秋冬いつでも楽しむことができ、網走の四季を直に感じることができる。世界自然遺産に登録されている知床の山々やオホーツク海を一望できる小高い丘で、オホーツクの大自然と動物との触れ合いを満喫することができる。

### 8.3.3 ネイチャー体験

ネイチャーガイドでは、動植物に詳しいガイドと共に、森や野へ行き、説明がないと気づけないような自然の営みに驚いたり、感動したりすることで、身心をリフレッシュすることができる。網走では、網走スターウォッチングという星空の観察をガイドしてくれる体験があったり、春・夏には野鳥や野の花を観察する野鳥と野の花ウォッチングという体験も行われている。網走は森、山、川、湖、海のある自然豊かなところで、特に春から初夏にかけては、バードウォッチングや野の花観察におすすめの季節である。そこで、野鳥と野の花ウォッチングの内容としては、春は網走湖畔の森でスプリングエフェメ

ラル(春の妖精)と呼ばれる足元に咲くかわいい野の花を見ながら、のんびりと散策を行う。初夏は小清水原生花園と濤沸湖でラムサール条約登録湿地・濤沸湖は1年を通して多くの野鳥が飛来するため、その観察を行うことができる。

冬になると、流氷と氷瀑のスノートレッキングといった体験や網走湖水上でワカサギ釣りのたいけんなどを楽しむことができる。スノートレッキングでは、網走郊外に毎年できる、岩肌に沿って流れる水が、気温の低下にもなまって凍結を繰り返してきた「氷瀑」を見ることができる。流氷や知床連山を眺めることもでき、のんびりと楽しく散策することができる。

図 8-13 ホーストレッキング



出所：旅なび！網走

図 8-14 スノートレッキング



出所：オホーツク自然堂 HP

## 参照 HP

- ・ 網走市観光協会

<http://www.abakanko.jp/>

- ・ 網走市公式サイト

<http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/>

- ・ 旅なび！網走

<http://abashiri.jp/tabinavi/index.html>

- ・ オホーツク流氷館 HP

<http://inspot.jp/ryuhyokan/>

- ・ 網走流氷観光砕氷船おーろら公式 HP

<http://www.ms-aurora.com/abashiri/index.html>

- ・ 知床 オホーツク 流氷ノロッコ号 列車 釧網線 網走 ウトロ - MapFan Web

<http://www.mapfan.com/kankou/special/090121/1.html>

- ・ 網走原生牧場観光センターHP

<http://www3.ocn.ne.jp/~gensei/>

・オホーツク自然堂

<http://www.jinendo.net/>

・オホーツク街道・秋の旅

<http://blowinthewind.net/siba/ohotsuku.htm>